

S I Pにおける「構造化チーム」の試行について

令和元年6月27日
S I P / P R I S M 総括

1. 趣旨

S I P 構造化チームでは、各課題について、エビデンスやグローバルな視点を基に、出口戦略、目標設定等における各課題の問題点について検討し、その結果をプログラム統括や課題評価WGに報告することで、各課題内容の見直し支援や社会実装を実現するためのマネジメント支援を行う。

2. 体制

須藤政策参与（S I P プログラム統括）の下、成果の社会実装への対応に重点を置いたチームを編成する（別紙参照）。チーム員については、内閣府において委嘱を行い、守秘義務を課すことで内部限りの情報についても共有を可能とする。

【チーム長】

- 梶川 裕矢（東京工業大学環境・社会理工学術院教授）（S I P 第2期課題評価WG委員）

【チームメンバー】

- 阿部 剛士（横河電機株式会社常務執行役員マーケティング本部長）
- 東 博暢（日本総合研究所リサーチコンサルティング部門プリンシパル）
- 江渡 浩一郎（産業技術総合研究所知能システム研究部門 主任研究員）
- 小笠原 治（A B B A L a b 代表取締役）
- 鮫島 昌弘（A N R I パートナー）
- 松本 勝（V I S I T S T e c h n o l o g i e s 代表取締役社長）
- 水野 正明（名古屋大学先端医療・臨床研究支援センター長・病院教授）
- 安川 新一郎（グレートジャーニー合同会社代表社員）
- 八尋 俊英（日立コンサルティング代表取締役社長）

（※敬称略）

3. 活動内容

- 構造化チーム会合の実施（2か月に1回程度開催とし、全5回の開催を想定）
- P D / 研究責任者との意見交換（専門性や関心に応じて任意参加）
- 対象課題の現地訪問（専門性や関心に応じて任意参加）

4. 成果イメージ

- 対象課題や対象研究テーマの研究開発の方向性について、グローバルな視点やエビデンスに基づく助言・提案
- ベンチャーキャピタル等の視点を踏まえた出口戦略の策定・マネジメント支援等
- 最終的に、研究開発動向等の調査結果やPD/研究責任者との意見交換、対象課題の現地訪問等の結果を基に、プログラム統括に対し助言を行う。また、必要に応じて、課題評価WGに対して助言を行う。(PDの関心に合わせて適宜アドバイスも検討)

<対象課題¹>

- ビッグデータ・AIを活用したサイバー空間基盤技術
- フィジカル空間デジタルデータ処理基盤
- IoT社会に対応したサイバー・フィジカル・セキュリティ
- スマートバイオ産業・農業基盤技術
- AIホスピタルによる高度診断・治療システム
- 自動運転（システムとサービスの拡張）
- (○スマート物流サービス)

<スケジュール>

2019年

- | | |
|--------|--|
| 6月27日 | ガバニングボードで構造化チームの設置を説明 |
| 7月～11月 | 第1回～第3回チーム会合開催
PD/研究責任者との意見交換、現地調査 |
| 12月 | 第4回チーム会合開催（プログラム統括及び
課題評価WGへの提言取りまとめ） |

2020年

- | | |
|--------|---------------------------|
| 1月、2月中 | 課題評価WGにおいてフィードバック |
| 2月末 | 第5回チーム会合開催（次年度の活動内容方針の検討） |

¹ サイバー・フィジカル領域に関連して、平成30年度SIP第2期課題評価結果が高かった/低かった課題

(別紙)

S I Pにおける構造化チームの体制図

